

ジェット時代から IT 時代になるにしたがい、世界各国や地域に住む人々の直接的な交流や情報交換が一段と容易になり、世界はますます狭くなってきた。この現象は、誰もが一人で生きていけないように、どの国や地域も単独で存在していくことが困難な時代になりつつあることを物語っている。

多くの国ではなんらかの理由で支援を必要とする人々に対して、社会福祉もしくは社会保障制度によって援助する仕組みになっている。これと同様に、世界レベルにおいて、国際的機関・機構あるいは国や地域間協定などをはじめ民間および個人レベルにおいて国際支援・協力が行われている。わが国も特に戦後には、諸外国の支援・協力を受けて復興し現在の状況に至っている。

同じくわが国の理学療法士の草創期においても、世界保健機関をはじめ、世界理学療法連盟や欧米の理学療法士の支援・協力を得ながら現在に至っている。そして、近年では、わが国の理学療法士あるいは日本理学療法士協会もいわゆる発展途上国はもとより、諸外国に対して可能な範囲で支援・協力を行っている。

国際支援・協力の事業形態は多岐にわたるが、そのなかで学術・教育面での支援・協力は理学療法の世界的普及とその水準を高める上で必要となる。そのような点から、わが国の理学療法士が国際学術大会で報告すること、国際学会を開催すること、そして JICA などを通じて諸外国に派遣されることなども国際支援・協力の事業としてたいへん重要なことである。わが国に理学療法士が誕生してほぼ 40 年になるが、今後ますます世界の理学療法の発展を祈念して、そのための事業が展開されることが期待される。

■国際協力を受けながら発展した日本の理学療法（田口順子論文）

先進国の国際協力を受けながら、日本に理学療法が誕生し、今日まで理学療法が発展してきた歴史を振り返り、草創期における経緯と状況について述べ、同時にその貴重な経験を踏まえた理学療法士の国際協力のあり方についても触れたい。

■学術・教育・組織を通じた理学療法士の国際協力（内山 靖、他論文）

近年の社会情勢から保健医療分野における国際協力はますます重要となっている。理学療法領域においても、個人および組織のレベルで様々な国際交流と国際協力（狭義）が実施されている。わが国の理学療法士が草創期に諸外国から受けた恩恵を発展的に伝承するとともに、国際的な視野にたった新しい知識・技術と幅広い価値観をもつ魅力ある専門職を試行する意味でも、世界の多くの人々と積極的な交流を図ることが望まれる。

■中国における理学療法学教育への国際協力（丸山仁司、他論文）

中国における理学療法士、理学療法学教育、および理学療法の業務（臨床、研究）の現状などについて概略を紹介する。中国における理学療法学への国際貢献には多くみられるが、代表的なものに日本国際協力機構（JICA）の支援によるプロジェクトがある。2001 年 11 月より、JICA による中国リハビリテーション専門職養成プロジェクト（4 年制大学設置）が開始された。このプロジェクトの内容はカリキュラム、教員養成、教材の援助などであり、その内容について紹介する。

—【とびら/カット作者紹介】—

大橋孝一（おおはし こういち）氏

1948 年 東京目黒区に生まれる。

1974 年 神奈川県藤沢市で理容店を始める。

1995 年 けがのため店を廃業。同年進行性筋ジストロフィーと診断される。
12 月国立療養所箱根病院に入院。

1997 年 油絵を描き始める。

まわりの人に勧められ、何事にも挑戦しようと思って絵を描き始めました。